

諸教会各位

聖書同盟を覚えてお祈りくださる兄弟のみなさま



国際キャンプ基金にご協力ください

主の御名を賛美します。

2019年の始まりを主にある幸いのうちに過ごされていることと存じます。聖書同盟においては、東西アジアの各国に広がるスクリプチャー・ユニオン (Scripture Union) の協力で開かれる「青少年国際キャンプ (通称 ISC: International Students Camp)」の開催年となりました。**第8回となる今回は2019年12月26日～2020年1月1日(現地日程)でマレーシア・ペラ州パターにおいて実施される**予定です。現在、国際キャンプ委員会ではキャンパー募集の準備を進めております。近いうちにご案内を差し上げる予定です。

さて、ISCがこれまで神さまの豊かな祝福をいただき、多くの青少年を励まし、ある者は主への献身へ、ある者は世界宣教へと導かれたことは、ニューズレター等で、折々にお伝えしてきました。ISCに参加した多くの者が、海外クリスチャンとの聖書の学びや交わりに良い影響を受け、世界宣教に目が開かれ、主にあって成長し、人生を大きく変えられました。私たちの住む日本は、世界で最も宣教の必要な国の一つです。将来、みことばを語り教会に仕えるようになるとしても、一般の職場で働くようになるとしても、世界宣教の視点に立って、この日本という国に遣わされたことを自覚できる若者たちがが必要です。ISCは主が若い人たちのために用いてくださる尊い働きであると私たちは確信しています。

この祝福された機会に、今回も多くの中学生、高校生、大学生に参加していただきたいと考えます。そして、ISCへの参加を、**参加者個人によるものではなく、主のからだである教会全体のわざとして行いたい、それが聖書同盟の願いです。**すなわち祈りと献金をもって、ともにこのキャンプを担っていただき、若い人たちを送り出したいのです。若い時に世界宣教のビジョンを与えられる者たちが日本全国に増えていくこと、これは主にある日本の教会全体の益になると私たちは信じます。どうか、このわざに参加して下さり、ご協力くださいますようお願いいたします。

具体的には、**目標額200万円の「国際キャンプ基金」を設け、**献金を募ります。これにより、参加者のキャンプ参加費の負担を軽減し、またキャンプの恵みを受け止めるための前後のフォローアップを充実させることができます。基金に協力して下さる教会、兄弟の方々には、祈りの課題やキャンプ情報、事後の証し等をお伝えし、主の恵みをお分かちしたいと存じます。趣旨にご賛同いただけますならば、下記の要領で献金をお送りいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

栄光在主

2019年2月

聖書同盟総主事 嶋田博考
国際キャンプ委員長 原 雅幸

記

献金先：郵便振替口座：00160-8-173175 口座名義：聖書同盟伝道部

※通信欄に「国際キャンプ基金」とはっきりとご記入ください。

※ゆうちょ銀行 ATM にて口座間の送金をされる場合（振込手数料が無料になる場合があります。）は、通信欄を用いることができませんので、お手数ですが、以下のメールアドレスに献金者名と「国際キャンプ基金」として送金しましたとご一報ください。

*メールアドレス：isc@su.jp.org

募集期間：2019年6月末まで

その他：基金の分配は国際キャンプ委員会の責任において、主の前に公正に行いますので、ご一任ください。献金をお送りくださった方、教会には、キャンプ終了後に証集とともに基金の会計報告および領収書をお送りいたします。

以上

ISC 経験者の証し（聖書同盟 60 周年記念誌より）

今からおよそ 20 年前、私は聖書同盟の国際キャンプに参加させていただきました。当時の私は 18 歳の未信者で、教会に数年通ってはいましたが、どうしても心から神さまを信じることができませんでした。しかし喜びであふれている教会員の方々を見ては、自分も神さまを信じたいと思っていました。そんな時、週報にふと目を向けると「国際キャンプ参加者募集」の文字が目に入りました。「これだ！」と確信めいたものを感じ、友人とすぐにキャンプの申し込みをしました。今までのアルバイト代が全部飛んでいった喪失感と、両親から反対を受けて口論を重ねた疲労感を出発直前まで感じつつ、それよりも神さまが必ず素晴らしいことを為してくださると自分に言い聞かせ、何とか出発当日を迎えることができました。

キャンプは期待通り、すべてが楽しくあっという間に毎日が過ぎていきました。5 日目を過ぎた頃、私は夜空を眺めに一人で外に出ました。数え切れない星々を見上げながら「神さま、私も心からあなたを信じたいです。」とお祈りしました。その途端、涙がポロポロとこぼれてきました。なぜなら神さまの存在をハッキリ感じ、今までわからなかった罪の赦しや神さまの愛が驚くほどすんなり理解することができたからです。まさにそれは、神さまが私の心の中に入ってきてくださった瞬間でした。

キャンプが終わって間もなくして、洗礼の恵みにあずかりました。海外に興味をもった私はその後アメリカの大学に留学し、帰国後は国際 NGO に就職しました。現在は東日本大震災で被害を受けた宮城県に夫婦で移住し英語を教えることを通して子どもたちの心のケアにあたっています。国際キャンプに行く道が開かれなかったら、きっと今の私の生活は全く違っていただろうなと思います。私にとって信仰の原点は国際キャンプだったと言っても過言ではありません。改めて神さまが 20 年前になしてくださった御業を覚え、喜びと感謝が絶えません。（川口亮子：愛知福音キリスト教会会員）



写真は ISC7thの様子